

ゆに わーるど

2017/1
Vol.55

2016年の活動状況

「テクノロジー・デー」を開催

世界の国から **ルワンダ共和国**



ルワンダ キガリの女性たち

設立50周年を迎えたUNIDO

2016年11月、UNIDOは設立50周年を迎えました。ウィーンのUNIDO本部では、11月21日から25日までの期間中、パネルディスカッションや講演を含む28のイベントが開催され、190カ国から1,600名の政府、国際機関、民間、学界の代表らが参加しました。

これらイベントには、155名のスピーカーやパネリストが登壇し、持続可能な開発の

ための2030アジェンダへの取り組み、開発資金調達、雇用創出、気候変動などについて議論を行いました。また、この期間中、18の協力合意書がオーストリア、ブルガリア、中国、ドイツ、日本を含む政府や政府関連機関との間で締結されました。

日本はUNIDOの設立メンバー国であり、最大の運営資金拠出国です。また途上国における様々な個別プロジェクトに

対しても資金提供しています。



2016年の活動状況

2016年1月～12月の一年間におけるUNIDO東京事務所の主な活動をご紹介します。

① 投資・技術移転促進専門官の招聘

11か国の政府機関・自治体・民間団体より、下記11名の投資・技術移転促進専門官を日本に招聘し、セミナーでの講演や企業・団体との個別面談などを通じて、現地のビジネス環境や個別の投資・技術案件を紹介しました（氏名、所属団体、招聘期間、促進分野の順に記載）。



キューバ
ミルタ・リベス・アレレル氏
キューバ共和国商業会議所
投資促進室長 2月29日～3月11日
自動車、農産品加工、鉱物資源



モンゴル
デルゲルバヤル・バダム氏
UNIDO 環境技術実証プロジェクト プロジェクト・マネージャー
10月23日～30日 廃棄物処理



インド
サンジャイ・パルク氏
印日商工会議所
パルク・インダストリーズ社 取締役
6月12日～19日 省エネ



ミャンマー
アウン・ミー・モー氏
ヤンゴン市開発委員会
公害防止清掃局 局長補佐
10月23日～30日 廃棄物処理



ケニア
ヘザー・ムニャオ氏
ケニア投資庁 投資促進担当官
6月15日～28日
自動車、機械



フィリピン
フェルディナンド・パレハ氏
ジェネラル・サントス市
廃棄物管理室長
10月23日～30日 廃棄物処理



コロンビア
パオラ・ガルシア氏
PROCOLOMBIA 外国投資部長
6月27日～7月8日
自動車、化学品、物流、エネルギー



ラオス
パノンコン・ダララッサミー氏
サワン・セノ経済特区庁
副局長 11月14日～19日
木材加工、農産品加工、鉱物資源



インドネシア
ナスカ氏
インドネシア工業省産業汚染制御
技術センター 研究開発部長
10月23日～30日 廃棄物処理



ルワンダ
ロバート・フォード・ンクシ氏
ルワンダ ICT 商工会議所
副会頭
11月24日～12月2日 ICT



イラン
エーサン・カヤンバシ氏
UNIDO SPX プロジェクト・コーディネーター
10月23日～30日 廃棄物処理



What are the achievements of international and government
in TICAD VI and how do they plan to work with the private sector
for African development?



② セミナー、フォーラム等の開催

下記をはじめとする計30件のセミナー、フォーラム、ワークショップを政府関連機関、業界団体などと協力して開催しました。

- キューバ投資機会セミナー（3月）
- バングラデシュ IT セミナー（5月）
- ガーナ投資フォーラム（5月）
- UNIDO 調達セミナー（5月）
- ケニア・ビジネスセミナー（6月）
- コロンビア投資セミナー（7月）
- TICAD VI サイドイベント・セミナー（8月）
- トルコ投資セミナー（9月）
- アジア廃棄物管理セミナー（10月）
- ヨルダン・日本ビジネスフォーラム（10月）
- TICAD VI フォローアップセミナー（11月）

③ 技術移転

下記の展示会にブース出展し、UNIDOの取組みや途上国などを紹介しました。また、環境エネルギー分野を中心に、日本企業の優れた技術をホームページ上で紹介しました。

- 「スマートコミュニティ Japan 2016」(6月)
- 「スマートエンジニアリング Tokyo 2016」(10月)



④ キャパシティ・ビルディング

駐日大使館職員を対象に、下記の展示会・工場への視察を実施しました。

- 「川崎国際環境技術展 2016」(2月)
- 製造業インキュベーション・センター「DMM. make AKIBA」(4月)
- 「スマートコミュニティ Japan 2016」(6月)
- 三菱ふそうトラック・バス株式会社 川崎工場(12月)
- 「エコプロ2016」展示会(12月)



from the world

世界の国から

ルワンダ共和国

Republic of Rwanda



ロバート・フォード・ンクシ氏

ルワンダICT商工会議所 副会頭

Mr. Robert Ford Nkusi

Vice President, Rwanda ICT Chamber

首都 キガリ
面積 約2.63万平方キロメートル
人口 1,210万人(2014年、世銀)
政体 共和制
元首 ポール・カガメ大統領
言語 キニアルワンダ語、
英語(2009年、公用語に追加)、
仏語
通貨 ルワンダ・フラン



世界標準の技術者を養成し、ICT立国を目指す

ルワンダ概況

ルワンダは、北にウガンダ、東にタンザニア、西にコンゴ民主共和国、南にブルンジと国境を接する内陸国で、中央アフリカ・東アフリカ地域への商業拠点として戦略上重要な立地にあります。近年「アフリカの奇跡」とも言われる急速な成長を遂げており、2014年以降の経済成長率は年平均8%前後、世界銀行のビジネス環境ランキングでは、2014年にアフリカで第2位となりました。アフリカ大陸で最も治安が良く、キガリ市は大変清潔な首都として有名です。国会では女性議員が53%を占め、政府も良好に機能しているので、近隣のアフリカ諸国にも影響力を持つ国であると言えます。

2回目の来日となる今回は、10日間のスケジュールで、東京、大阪、神戸を訪問し、教育・製造業・セキュリティ関連などで、ITを使ったソリューションを提供する日本企業15社と個別に面談し、ルワンダを含めた東アフリカ全体のビジネス機会について紹介しました。神戸では「神戸ITフェスティバル」にも参加し、ルワンダのITビジネスの現状や今後の可能性について講演を行いました。



急速に成長するICT分野

ルワンダは石油などの天然資源に恵まれていません。「千の丘の国」と呼ばれるように、国土全体に大小様々な丘が広がっており、農業に適した広大な土地を確保するのも困難です。このような環境のなかで、政府はICTの普及・整備や人材育成に力を注いでいます。

2011年にはICT商工会議所や若手起業家の拠点「Kラボ」が設立され、現在では政府の申請・登録の40%が電子化されています。キガリ・イノベーションシティ・プロジェクトでは、ルワンダへの進出を希望する企業が最適な環境でビジネスを開始できるよう、様々な免税措置や賃料の一部免除など、投資し易い環境の整備に取り組んでいます。

現在日本からは、スマートフォン向けアプリケーションなどを開発するレックスパート社が、現地に開発を委託するオフショア事業を展開する他、さくら社が算数ソフト教材の事業展開へ向けて現地調査を行っています。また、今年5月に神戸の久元市長がキガリ市を訪問したのを機に、神戸市との間にICT分野における経済交流、連携が進んでいます。将来的には、ITのアウトソース先として多くの日本企業をルワンダに誘致し、東アフリカ地域のICTインフラの統合を主導していきたいと考えています。



キガリ中心部(写真提供:ライオネルブログ)

日本企業とのビジネスに期待

ルワンダ人は真面目で誠実な人が多く、日本人と気質が似ていると思います。人口の60%が5歳~30歳という若い国であるため、技術革新を起こしていく上で最適な人材がそろっています。

今回の来日で、アフリカの成長力やビジネスチャンスに対する日本企業の認知度がまだ高まっていないということを改めて感じました。今後多くの日本企業に来て頂くために、既にルワンダに進出している日本企業と共同で、日本・ルワンダビジネスプラットフォームを立ち上げ、情報の共有やルワンダでの成功事例を紹介する双方向のネットワークを作りたいと考えています。

帰国後は今回お会いした企業に対するフォローアップを図り、特に手ごたえの強かった日本企業と具体的な話を進めたいと思います。

「テクノロジー・デー」を開催

UNIDO東京事務所は、2017年3月9日、国連大学本部レセプションホールにて、「テクノロジー・デー」を開催しました。同イベントには、UNIDOの「環境技術データベース」に登録する日本企業から12社が出展し、33カ国から在京大使館代表者を中心とする関係者約50人が来場しました。

■「テクノロジー・デー」概要

UNIDO東京事務所にとって初めての試みとなる同イベントは、日本企業の持つ独自の環境・エネルギー技術を紹介するブースセミナー型のイベントで、来場者が実際に製品やサンプルを手にとり、見ることで理解を深め、自国の環境・エネルギー問題を解決する技術に出会う良い機会となりました。イベント冒頭のUNIDO東京事務所のフェルダ・ゲレゲン次長の挨拶に続いて、参加企業各社による自社技術の紹介が行われました。

株式会社駒井ハルテックは、中型で高性能の風力タービンKWT300の紹介を行いました。JICUW株式会社は、農作物の育成を助ける水分子活性化技術「HIET」を、株式会社熊本清掃社は、食品残渣をリサイクルして有機肥料を製造する技術「バイオプラザ」をそれぞれ紹介し、途上国の循環型農業に役立つ技術として来場者の注目を集めました。

また、株式会社国際館は熱をカットする工業用コーティングを、株式会社フミンは、ガラス面に塗布することで太陽光をカットする「フミンコーティング」をそれ



ぞれ紹介し、省エネ・CO2削減に役立つ技術をアピールしました。株式会社ナベルは、持ち運び可能な折り畳み式ソーラーパネルと蓄電システムを、パナソニック株式会社は充電式ソーラーLEDランタンをそれぞれ紹介し、無電化地帯の多い国の来場者の熱い視線を集めました。各社による技術紹介の後、来場者が自由に各ブースを見学し、会場は熱気に包まれました。

■参加企業の声

ヤマハ発動機株式会社の西嶋氏は、自社の「緩速ろ過システム浄水器」を直に見て頂ける機会を有効に利用し、今後UNIDOの持つネットワークを活用して、自社の技術をアフリカ・アジアなどの途上国に広めていきたいと述べました。株式会社伸光テクノスの長澤氏は、自社の食品廃棄物を肥料・飼料に再資源化する技術が東南アジア各国の問題解決に一役買うのではないかと実感したと述べました。

日之出産業株式会社の橋本氏は、自社の「マイクロバブル」を使った廃水処理の新しい技術について、主にアフリカ各国の来場者からの反響が大きいと述べました。バイオマス炭化装置のアフリカを中心とした途上国向け展開を考える明和工業株式会社の徳成氏は、UNIDO経由でビジネス展開をすることで、現地の産業化に貢献していきたいと抱負を述べました。

汚染された川や湖に散布することで水を浄化する「バクチャー」を紹介したRBCコンサルタント株式会社の杉山氏は、UNIDOを通じて海外の方も安心して当社を招き入れてくれるのが強みだと述べ、UNIDOのアドバイスを得ながら丁寧に自社の製品を説明し、発展途上国において注目を浴びるように今後も活動していきたいと述べました。



■来場者の声

タンザニアのマチアス・M・チカウェ大使は、主に排水浄化技術やエネルギー技術を持つ会社のブースを回り、日本の技術が自国の発展に役立つと実感し、日本から多くの技術移転や投資を呼び込むために、このようなイベントに参加することは大変有意義なことだと感想を述べました。ネパールのクリシュナ・チャンドラ・アリアル臨時代理大使は、ネパールではごみ問題が深刻化しているため、廃棄物処理技術や水処理技術に大変興味をもったと述べ、UNIDOを通じてネパールへの投資や技術移転が促進されることへの期待を示しました。

ルワンダ大使館コミュニケーションオフィサーのサムエル・ビゲンベ・イマニシム氏は、全てのブースを精力的に回り、ルワンダのような経済成長を続けている国にとって有効な環境技術が展示されていたと述べ、このような機会を利用して出来る限り色々な技術に出会い、日本の技術を受け入れられる環境を自国で作るためにも、親密な関係を築いていきたいと熱く語りました。

本イベントでは、大規模な展示会と比べて出展企業と来場者の距離が近く、海外進出を目指す日本企業と、自国への技術移転の可能性を模索する各国来場者との間で、最後まで熱のこもった交流が行われ、「テクノロジー・デー」は盛会裏に終了しました。